

災害時の水配送を想定した訓練を実施



2025 年 5 月 11 日、東京都新宿区にあります下落合クリニック様にて、災害時の水配送を想定した訓練を実施しました。

下落合クリニック様は人工透析を中心とした診療を行っております。人工透析は一人 1 日 150L から 200L の大量の水を必要とし、災害時の水確保が大きな課題になります。

この課題を解決するため、災害時に弊社拠点より、1KLタンク 2 基の水を配送し、受水槽へ給水を行う訓練を行いました。

訓練では弊社の配送依頼から、実際に給水を行うルートの確認等を行い、災害時における水配送の課題を確認しました。

下落合クリニック様では災害対策について非常に力を入れており、災害時には近隣の透析患者を受け入れる準備を日頃から進めておられます。弊社の水配送が、東京都の災害時透析医療を一端を担う責任を全うするため、今後も訓練等を通じて精度を高めてまいります。



災害時水配送契約で生活用水を確保

人間が生きていくためには水は不可欠です。大規模な自然災害が発生すると水道管の破損等を原因とした断水が発生します。飲料用のペットボトルなどの水は備蓄や各方面からの支援があり、比較的確保がしやすいですが、炊事、洗濯、風呂等で使用する生活用水は量も大量になるため、確保が難しくなります。

日本 BCP ではメインとなる燃料備蓄配送に加え、災害時の水配送にも力を入れております。お気軽にお問い合わせください。



専門家に聞く

令和 6 年能登半島地震の災害関連死を分析する中で明らかになったのは、透析治療が受けられなかったこと自体よりも、いつもの病院で治療を受けられず、遠方の医療機関まで長距離・悪路を移動せざるを得なかったことが、透析患者本人や付き添った高齢の親族に大きな負担となり、命を落とす結果につながった事例が少なくなかったという事実です。

これは、なじみの病院での治療継続や、近隣で代替医療を確保できる体制の重要性を示唆しています。（関西大学社会安全学部 教授 奥村与志弘）



「総合防災・減災企業」として命をつなぐサービスを増進する



日本BCP株式会社

【東京本社】〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 48 番地 ism 神田 2 階
TEL:03-5289-0223/FAX:03-5289-0235
【大阪本部】〒599-8235 大阪府堺市中区深井東町 3099 番地
TEL:072-230-5888/FAX:072-230-5887

当通信の文章・画像・図表等の無断転載・複製を禁止します

お問合せはこちら

